



Equality

—— 誰もが平等の権利を持つ社会へ ——

101号

開く格差
～下層化する人々～

文京区男女平等センター

ルポ ニッポン リアル

2022

～女性の貧困～

コロナがきっかけで世の中の多くのことが変わりました。特に貧困層への打撃は大きく、にわかには信じられないような状況が今、日本に起きています。若者の貧困、格差社会、男女不平等により深まる歪み・・・今号では実際に困窮者の救済活動をしている、作家の雨宮処凛さんにルポルタージュとしてご寄稿頂きました。



あまみや かりん 雨宮処凛さん

プロフィール

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。フリーターなどを経て00年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』(太田出版/ちくま文庫)でデビュー。06年からは貧困問題に取り組み、『生きさせろ! 難民化する若者たち』(07年、太田出版/ちくま文庫)はJCJ賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。

著書に『非正規・単身・アラフォー女性』(光文社新書)、『相模原事件裁判傍聴記 「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ』(太田出版)、『生きのびるための「失敗」入門』(河出書房新社)など多数。

2020年以降のコロナ禍では、「新型コロナ災害緊急アクション」メンバーとして生活困窮者の支援に取り組む。その活動をまとめた著書に『コロナ禍、貧困の記録 2020年、この国の底が抜けた』(かもがわ出版)がある。

最新刊は、コロナ禍の日本各地取材した『祝祭の陰で2020～2021 コロナ禍と五輪の列島を歩く』(岩波書店)。



電話相談から見えた コロナ禍の女性不況

「30代女性。派遣で働いているがコロナで仕事が不安定になり、派遣があっても単発の仕事しかない。一年半で預金もなくなってきた。住民税や年金、健康保険を滞納している」

「40代女性。フリーランスで収入がなくなり母の年金で生活中。何か利用できる制度は?」

「50代女性。母子家庭で息子(20代)と二人暮らし。元夫より虐待を受けてきて誰も頼れない。行政、弁護士に相談しても『あなたがおかしい』と相手にしてもらえない。生活保護も受け付けてもらえなかった」

「40代女性。スナックで働いていたが休業続き。貯金とパートでしのいできたが、もう限界。社協の借入れ(著者注・国の特例貸付)も受けてしまったので生活保護の相談に行ったら『若いからどうにかなるでしょ』と言われた」

「20代女性。単身。コロナの影響で仕事が減少し、3つの仕事をかけもちしているが、コロナ前に比べ約10万円月収が減り、生活に困窮」

「40代女性。単身。離婚し保育園で働いている。借金もあるので風俗のアルバイトもしてきたがコロナで収入が減り、やりくりができなくなっている」

これらの言葉は、2020年4月から隔月で開催されている「コロナ災害を乗り越える いのちとくらしを守る なんでも電話相談会」に寄せられたものだ。

22年6月時点までに14回開催された電話相談に寄せられた声は、実に1万3000件以上。全国の会場で弁護士や司法書士が無料で電話を受けるこの相

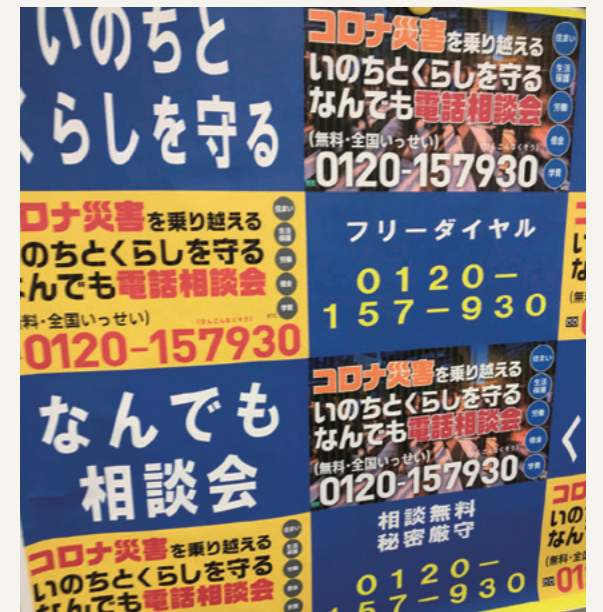
談会で、私も相談員をつとめてきた。

コロナ禍初期に寄せられた相談には、「休業手当は出るのか」など、混乱した状況の中での労働相談が多かった。飲食、宿泊などのサービス業で非正規で働く女性たちや、スポーツジムやヨガインストラクターなどのフリーランス女性からの相談も多かった。

そんなコロナ禍は「女性不況」とも呼ばれるわけだが、そのことを示す数字は多くある。

いのちと暮らしの相談ナビ

<http://www.lifelink-db.org/>



電話相談

非正規雇用 6割 女性たちの現状と 増える 自殺者数

例えばコロナ不況は非正規で働く人を直撃したわけだが、女性の非正規雇用率はコロナ以前から6割近く。また、非正規で働く人の平均年収は176万

円だが、女性非正規に限ると153万円(2020年 国税庁)。月に13万円にも届かない計算である。これで一人暮らしだと貯金などまづできないわけだが、

コロナ以前の19年の「家計の金融行動に関する世論調査」によると、単身の貯金ゼロ世帯は38%にも
のぼる。20代では45.2%、30代では36.5%、40代は
40.5%だ。

ちなみにコロナはまずサービスを直撃したわけ
だが、飲食・宿泊で働く人の64%が女性。そのほと
んどが非正規だ。

東京都 相談はっとLINE@東京

東京都 自殺相談ダイヤル 〜こころといのちのホットライン〜 0570-087478

実質失業 女性103万人

また、21年2月には、女性の実質失業者が103万人にも上るという野村
総研の試算が発表された。パート・アルバイトのうち、シフトが5割以上減り、
休業手当も受け取っていない女性がそれだけいるというのだ。

冒頭の電話相談に寄せられた言葉は、そんなコロナ禍で苦境に喘ぐ女性た
ちから寄せられたものである。紹介したのは、配偶者がいないと思われる女
性たち。非正規女性というと、パート主婦なども含まれることから「自分で
生計立ててるわけじゃないんでしょ？」という声もある。が、非正規で働く
女性は、数にして1413万人(21年労働力調査)。そのうち、夫がいる女性は
6割弱。4割強は、単身やシングルマザーなど、自らの稼ぎで生活しなけれ
ばならない人たちだ。数にして560万人を超える。

冒頭の声も、一人暮らし、もしくは子どもや高齢の親と同居しているが、
経済的に頼れる配偶者がいないと思われる点で共通している。

所得が低い層への打撃 ひっ迫する高齢者の暮らし

では、結婚していれば安泰かと言えば、まったく
そんなことはない。

電話相談には、既婚女性からの悲鳴も届いている。
「夫はタクシー運転手。元々30万円くらいの収入
が減少。自身はパートで二人合わせても20万円く
らいにしかならない。緊急小口、総合支援資金借り
入れ済み。生活が大変で何か利用できるものはない
か」

「40代女性。夫が旅行会社勤務。ボーナスカット、
4月から給料15%カット。月8万のローンがきび
しい。貸付制度はないか」

また、夫婦で職を失った人もいる。

「60代女性。夫70代。夫婦でホテルの清掃に従
事していたが、コロナの影響で退職することになっ
た。年齢的にも再就職は厳しく生活が困窮している」

高齢の夫婦でも働かなくては生活していけない実
態が浮かび上がるが、特に高齢者からは切実な声が

きて、ここまでのことを一言で言えば、この国の
サービスを支えていたのは低賃金の非正規女性た
ちで、その層がなんの保証もなく放り出されたのが
コロナ禍だったのである。

そんな苦境を示すように、20年の女性の自殺者
は前年比で935人増え、15.4%増の7026人。

届いている。

「70代女性 現在、月5万円の年金で生活してお
り、生活保護の申請に行ったら、持ち家があるので
保護は受けられないと言われた」

「70代女性 6月に解雇され、自分の葬儀費用と
して貯めていた貯金を崩しながら生活している。障
害のある子どもと二人暮らし。この先の生活が不安」

「70代女性 コロナにより仕事を失い、地元
に帰ってきた。間借りしているが、住居が見つかりし
だい出て行つてと言われている。市営住宅に当選し
たが、保証人を断られ、申し込み期限に間に合いそ
うにない」

「60代女性 残業がなくなり、生活が厳しい。体
調が悪いので医者に行きたいがお金がない」

文京区 自立相談支援窓口 03-5803-1917
よりそいホットライン 0120-279-338

50代以上単身女性、 ネットカフェ暮らし

生活保護、 持ち家があっても申請できる

一方、「持ち家があるので保護は受けられないと
言われた」というケースがあるが、生活保護は持ち
家があっても利用できる。すでにローンが終わって
いて、資産価値が約2500万円以下(都内では3000
万以下)であれば、持ち家に住みながら利用できる
のだ。ローンが残っている場合は売ることになるが、
すぐに売れるわけではないので、売れるまでの間、
生活保護を利用することができる。物件が売れたら
保護費を返済するという仕組みだ。

もう一つ、生活保護の誤解として「車があると利
用できない」というものもあるが、通勤や通院に必
要と判断されれば車を所有したままで生活保護を利

文京区 生活福祉課 03-5803-1216
文京区社会福祉協議会 地域福祉推進係 03-5615-8017

ステイホームと DV被害

さて、電話相談に寄せられた声の中には、DVに
関するものもある。失業した夫からの暴力が始まっ
た、在宅ワークで1日中顔を突き合わせる中で耐え
難いモラハラに苛まれている等々。コロナ禍で、政
府や自治体のDV相談件数は1.6倍にも増えている
という。電話相談には、すでに逃げ出したという女
性からの声も届いている。

「50代女性。夫のDVから逃げて友人宅に身を寄
せている。生活保護の相談に行っても『友人宅はダ
メ。シェルターに入ってもらおう』と言われる。親か

「60代女性。解雇される。友人の自宅で居候、ネッ
トカフェを転々とする。生活保護申請したが3回断
られる」

驚くのは、最後の例のように、60代でネットカ
フェ生活を強いられる女性がいるということだ。が、
これは特別なケースではなく、50代以上の単身女
性がネットカフェ生活をしているという例にはコロ
ナ禍で多く出会っている。

用できる。さらに付け加えておきたいのは、生活保
護はペットがいても利用できるということ。

コロナ禍で、犬や猫とともにアパートを追い出さ
れた人の支援をしてきた。当人が困り果てて役所の
窓口に行ったところ、「生活保護を受けるならペッ
トを処分しろ」などと言われた例をいくつか知って
いるが、これはまったくもって違法な対応である。
生活保護は、ペットがいても利用できる。ペット問
題に限らず、役所の窓口で理不尽な対応をされた場
合、「首都圏生活保護支援法律家ネットワーク」な
どに相談してみるといいだろう。

ら虐待を受けて10代で家を出たが、その親に扶養
照会をかけると言われた。死のうと思っている」

「70代女性。DVで他県から転居。仕事も失った」
困窮やホームレス化のきっかけが、夫のDVから
逃げ出したことだったという女性はこれまでも少な
くなかったが、コロナ禍ではそんな相談がどっと増
えている。長時間労働でろくに顔も合わせない日常
でスルーできていた夫婦間の問題が、ステイホーム
によって一気に顕在化したという印象だ。

文京区 配偶者暴力相談支援センター 03-5803-1945
文京区 男女平等センター相談室 03-3812-7149 / SNS @bunkyo_soudan

女性による 女性のための相談会

きっかけは女性の 困窮者の増加



「女性による女性のための相談会」



相談会で配布した食料



「コロナ被害相談村」

さて、ここまで書いたような女性の窮状を受け、21年3月から、3回にわたって「女性による女性のための相談会」が開催され、私も相談員をつとめている。スタッフ・ボランティア全員女性で、女性の相談を受けるという取り組みだ。

きっかけのひとつは、20年末から21年明けにかけて開催された「コロナ被害相談村」。

この相談会は、08～09年にかけて開催された「年越し派遣村」有志によって企画されたのだが、リーマンショックを受けて派遣切りの嵐が吹き荒れた

08年末から年始にかけての6日間、日比谷公園の派遣村には職も住まいも所持金も失った人々が505人、訪れた。その多くが、製造業派遣の仕事を切られた中高年男性。505人のうち、女性はわずか5人、1%だった。

が、20年から21年にかけての年末年始、3日間に渡って開催された「コロナ被害相談村」を訪れた344人のうち、女性は62人、18%にまで増えていた。特筆すべきは、その62のうち、29%がすでに住ま

いがなく、42%が収入ゼロ、21%が所持金1000円以下だったということだ。

また、21年末から22年始にかけて開催された「コロナ被害相談村」には2日間で418人が訪れたものの、女性は89人で21%とさらに増えていた。

一方、コロナ禍では「炊き出し」の光景も変わっている。コロナ以前は近隣で野宿する中高年男性が中心だった炊き出しや食品配布に、今や500人以上

が行列を作る(コロナ以前は100人ほど)。その多くは住まいがある人で、なんとか最優先で家賃は払っているものの、少ない貯金を切り崩しながら節約に節約を重ねて生活している人たちだ。収入が半減した人もいれば、失業した人もいる。その中には若い女性やカップルの姿もあれば、子どもを連れた母親の姿もある。

法務省

みんなの人権110番 0570-003-110

子どもの人権110番 0120-007-110

女性の窮状は 複合的

このように、この2年間で支援現場の光景はガラリと変わった。そこで、多くの女性が「女性に特化した相談会」の必要性を感じ、「女性による女性のための相談会」が開催されるようになったというわけだ。これまで3度の相談会で、600件以上の相談を受けている。相談に来る世代は10～80代と幅広く、内容也多岐にわたる。例えば男性の場合、生活相談、労働相談という形で「〇〇問題」と分類できるものが多いのだが、女性の場合、複合的な要素が絡み合っている相談が多い。例えばコロナでパートのシフトが激減した上、失業した夫からDVが始ま

り離婚を考えているが、子どもの病気と親の介護もあり悩んでいる、といった具合だ。

女性相談会はカフェのような雰囲気を大切にしており、まずはあたたかいお茶を飲み、軽食を食べてもらいながら聞き取りをする。そこから専門の相談員が相談ブースで話を聞き、帰りには「マルシェ」に寄ってもらう。そこには新鮮な野菜やお米、コスメや衣類、生理用品などが用意され、無料で持ち帰ることができる。好評なのは生花だ。

「生活が苦しくて、お花なんてずっと買えなかった」という喜びの声も多い。

住まいなし、 仕事なし、 所持金なし

続く異常事態

さて、コロナ禍からもう2年以上。このように民間の「共助」の輪は広がっているが、現場の支援者は疲弊している。何しろ、年末年始などの相談会だけでなく、日常的な「駆けつけ支援」もあるからだ。

例えば「反貧困ネットワーク」が呼びかけて20年3月に結成された「新型コロナ災害緊急アクション」では、この2年強で約2000件のSOSに対応している。「家賃を滞納してアパートを追い出された」「所持金ゼロ円」「もう3日何も口にしていない」「派遣の仕事を解雇されて寮を出されてホームレスになった」などのSOSが連日寄せられるからだ。メールをくれる人の8割がすでに住まいを失い、約半数が携帯も止まっている。交通費もない人が多いので支援者がその人のいる場に駆けつけ、緊急宿泊費と食費を渡してまずホテルで身体を休めてもらい、後

日、生活保護申請などに同行するという取り組みだ(遠方の場合はその地域の支援団体などを紹介する)。SOSをくれる6割が10～30代で、女性は約2割。これまでに支給した総額は8000万円以上にのぼる。すべて「緊急ささえあい基金」に寄せられた寄付金だ。

具体的に命を繋いでいる重要な取り組みだが、民間の団体がこれほどの給付をし、2年間、フル稼働で駆けつけ支援をしていること自体が異常事態である。SOSをくれる中には、一人で役所の生活保護の相談に行ったものの追い返されたという人も少なくない。

まずは「公助」がしっかりと機能すること。

民間のボランティアがフル稼働しなくていい公的福祉の拡充を、心から望んでいる。



多様性って何だろう？

様々な価値観を持つ人が共に暮らす社会を生きる

中学生～

『平等ってなんだろう？あなたと考える身近な社会の不平等』
齋藤純一 著／平凡社



そもそも「平等」ってなんだろう？いったい誰からみた平等なの？何を平等・不平等と感じるかは、個人の現在の状況や立場によって異なります。またどんな経済・政治システムの国に住んでいるかによっても左右されます。未来への希望が持てるようになるために、平等を考えることが、まず一歩。

社会を変えるというと敷居が高く感じますが、生活の中のちょっとした違和感、モヤモヤした気持ちを表現し対話することから、小さな変化が生まれることでしょう。

高校生～

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』
佐藤文香監修・一橋大学社会学部 佐藤文香ゼミ一同 著／明石書店



ジェンダーとは、社会的・文化的につくられる性別を指します。それは時代の変化によって変容し、個人の役割や行動に制約を与えます。この本では、一橋大学の学生が、ジェンダーに関する29の疑問について、問いと答えの構成で書かれています。答えには、レベル別の3部構成で、大学生の視点をいかしたわかりやすい文章で書かれています。

コラム「ジェンダーを勉強するとつらくなる？」では、学ぶことで、いろいろなことに気がついて苦しくなってしまう等身大の経験が書かれています。もう大人になった人も、これから大人になる人にも新しい気づきがある本です。

中学生～

『ほんとうの多様性についての話をしよう』
サンドラ・ヘフェリン 著／旬報社



著者は日本人の母とドイツ人の父を持ち、23歳までドイツで暮らし、その後日本で20年以上生活しています。ドイツでは日本人扱い、日本では外国人扱いをされることが多々あった経験から、著者のように複数のルーツを持つ人から見た多様性とその国のマジョリティが考える多様性との間には大きな隔たりがあると述べています。多様性とは、「みんながみんなをたがいに受け入れる優しい世界」なのでしょう。か。「あの人とは違うから」とあきらめることでも、逆に全てを受け入れることでもない。誤解や衝突があっても当たり前、自分たちが生きている世界を全ての人と作っていく「覚悟」が今を生きる私たちに必要ではないでしょうか。

文京区男女平等センターの資料コーナーには、男女平等に関する図書、行政資料や全国の女性団体資料をそろえています。他にも、ジェンダーや人権問題を取り上げた児童書や多くのビデオ等のメディアを所蔵しています。

今回は、その資料コーナーからいくつかの本を紹介します。

一般～

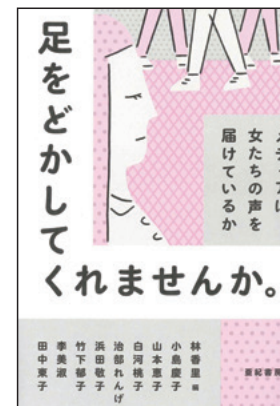
『誰も教えてくれなかった 子どものいない女性の生き方』
くどうみやこ 著／主婦の友社



「親になって一人前」、「結婚して子どものいる家庭に一番の幸せがある」多様性という言葉は社会に浸透しつつあるのに、現実には固まった価値観とのギャップが依然としてあります。選択肢が増え、生き方が多様化してきた現代では、立場が違う人に対して、共感より無意識の偏見や思い込みを持ってしまふことがあります。子どものいない女性の思いは、少数派として扱われ、話をする場がありませんでした。今や家族のあり方が変容し、世の中が生き方の多様化によりやく目を向けはじめたと言えます。自分にとっての幸せな生き方を大切にできる社会にしたいと強く思います。

一般～

『足をどかしてくれませんか。メディアは女たちの声を届けているか』
林香里 編 小島慶子・山本恵子・白河桃子・治部れんげ・浜田敬子・竹下郁子・李美淑・田中東子 著／亜紀書房



メディアは、私たちの生きている世界をうつしだす鏡の役割をしているのでしょうか。例えば司会者のサポート役の女性アナウンサーや、CMで職場でも家庭でも若く美しく、一人で家事を完璧にこなす女性などをよく目にします。そこにリアルは無いのに、目にする子どもたちや私たちも、無意識のうちに価値観が刷り込まれています。一方で何を表そうと、それは「表現の自由」だという意見があります。表現の自由は、自分の意見とは異なる意見も尊重されることが重要です。

ジャーナリスト、研究者、エッセイストらが自らの体験をもとにメディアのあるべき姿を考えます。

一般～

『三十の反撃』
ソン・ウォンピョン 著／祥伝社



1988年生まれ、大学を卒業して非正規のインターンとして働きながら、大企業の正社員を夢見て面接を受け落ち続けています。88年生まれに一番多い「ジヘ」という名前前で、その名が表すようにとても平凡な30歳の女性です。立場の弱い者が立場の強い者に意見できることはほぼありません。そして立場の弱い者になったのは、自分の選択だと思わされる社会の大きな壁があります。誰にもわかってもらえない息苦しさを抱えた日々に、同じ年のギョウクと出会い、この理不尽な社会に小さな反撃を試みます。社会に従順になっても、抗ったとしても向き合うのはつらいこと。自分の道を探してもがき続けるジヘはついに一歩を踏み出す決意をします。

文京区男女平等参画推進計画を改定しました

文京区では、「文京区男女平等参画推進条例」に基づいて、「文京区男女平等参画推進計画」を策定しています。この計画は、男女平等参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための、基本的な計画です。

この度、これまでの取組を継承するとともに、社会情勢の変化や区民調査の結果などを踏まえ、新たな課題に取り組むため、改定を行いました。

身近な家庭生活の場をはじめ、職場、地域活動・社会活動、政策や方針決定の場など、社会のあらゆる場において、性別にかかわらず、一人一人が個性と能力を発揮し、いきいきと暮らせるまちを目指します。

計画期間は令和4年度から令和8年度までの5年間で、下記体系図のとおり、4つの大項目（目標）に結び付いた各小項目（施策）に区全体で取り組み、毎年度進捗を確認します。

計画の内容等の詳細については、区ホームページをご覧ください。

区 HP▶



計画の体系

大項目（目標）	中項目（施策の方向性）	小項目（施策）
Ⅰ あらゆる人の人権と その多様性を尊重する 意識の形成と取組の推進	1 一人一人の人権を尊重する ジェンダー平等教育の推進	(1) 幼少期からの教育場における学びの機会提供の推進 (2) 生涯学習における学びの機会提供の推進 (3) 理工系分野で活躍する女性の人材育成
	2 ジェンダー平等の意識を高める 広報・啓発等の推進	(1) ジェンダー平等の実現に向けた啓発の充実 (2) あらゆる機会を活用した広報
	3 性自認及び性的指向に対する理解促進	(1) 多様な性に関する理解促進 (2) 区職員・教職員への啓発
	4 政策・方針決定過程における男女平等参画	(1) 政策・方針決定過程への女性の参画促進
	5 地域社会における男女平等参画	(1) 地域活動への参画のための活動支援 (2) 男女平等センターを拠点とした推進
	6 男女平等参画の視点に立った 防災対策の推進	(1) 男女平等参画の視点に立った災害時対応 (2) 防災に関する活動等への女性の参画推進
Ⅱ あらゆる人の 職業生活における 活躍の推進 【女性活躍推進計画】	1 ワーク・ライフ・バランスの推進	(1) 男性が家事・育児・介護に主体的に関わる取組の推進 (2) 子育てへの支援 (3) 保育環境の充実 (4) 介護者等への支援
	2 自らの能力を発揮し、活躍できる 就業環境整備の推進	(1) 働きやすい職場環境の整備・支援 (2) 女性の就労・再就職、起業等への支援 (3) 多様で柔軟な働き方の支援
Ⅲ あらゆる暴力の根絶と 生涯を通じた心と身体の 健康の支援	1 配偶者等からの暴力の根絶と支援 【配偶者等暴力防止基本計画】	(1) 配偶者等からの暴力の防止と啓発 (2) 早期発見と相談体制の充実 (3) 被害者の保護から自立・生活再建までを支援する体制の整備 (4) 児童等への虐待の防止と支援
	2 あらゆる暴力の根絶	(1) 子ども・若年層に対する暴力の根絶に向けた対応 (2) 様々なハラスメントや暴力の防止・対応 (3) 性の商品化とメディアにおける性・暴力表現への対応
	3 生涯を通じた健康支援	(1) 性と生殖に関する健康と権利（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）の普及・啓発 (2) 保健指導・健康診査の充実
	4 人権の尊重と自立への支援	(1) 啓発・相談機能の充実 (2) 貧困等複数の困難を抱える人への各種支援制度の整備
Ⅳ 推進体制の整備	1 庁内等推進体制の整備・充実	(1) 文京区男女平等参画推進条例の推進 (2) 計画の推進と評価体制の確立 (3) 区職員への意識啓発及び人材育成 (4) 苦情申立制度の運用
	2 国際社会と国内の取組の 積極的理解・連携	(1) 国際社会の取組との連携 (2) 持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）、女性のエンパワメント原則（WEPS）の周知・推進 (3) 国・都・大学・企業・民間団体との連携の強化

文京区女性のエンパワメント原則（WEPS）推進事業所のご紹介

文京区は、女性のエンパワメント原則（WEPS）に沿い、地域と連携して、女性の活躍を推進し、男女平等参画の実現を目指して取り組む事業所を募集し、「文京区女性のエンパワメント原則推進事業所」として登録しています。

女性のエンパワメント原則とは、2010年に国連グローバル・コンパクトとUNIFEM（現UN Women）が作成した、女性が社会的にその力を発揮できる環境の整備に企業が積極的に取り組むための行動指針です。

今回はこの「文京区女性のエンパワメント原則推進事業所」の登録事業所である、株式会社全日本ガードシステムの取組をご紹介します。

株式会社 全日本ガードシステム

<http://www.ags-keibi.co.jp/>

全日本ガードシステム HP▶



事業内容

オフィスビル、マンション、商業施設、病院、学校や公共施設等、様々な建物の警備業務で安全安心を提供しております。



女性の活躍推進に向けた取り組み

- 女性契約社員の正社員への登用を進めています。
- 女性社員の管理監督職への任用を進めています。
- 次世代育成教育の一環として実施している社内教育へ、女性社員の参加を促進しています。
- 地域貢献策として、町内行事等への積極的な参加を行っています。

事業所PR

女性社員の職位付与も積極的に行っており本年度4月に部門長となった方もおります。特に近年、保安警備や施設警備の現場において、女性警備員のニーズが高まっておりますので、女性警備員の採用を更に推進していきたいと考えております。

活躍中の従業員インタビュー

2007年入社 警備担当 Oさん

- 現在の仕事の魅力はどんなところですか？

区の施設での警備業務のお仕事のため、色々な方々と交流ができます。また大きな現場のため覚えることもたくさんありますが、業務スキルが上がり成長を実感できます。

- 今、目標としていることは何ですか？

今までよりも更に知識と経験を積み重ね、色々な方面で活躍できるようにしていくことが目標です。

- 職場の良いところは何か？

皆さんがとてもやさしく色々と教えてくださるので、とても居心地が良いです。

文京区では、女性の活躍を推進する事業所を随時募集しています。

申込方法等詳細は、区ホームページをご覧ください。

区 HP▶



2022年10月22日(土)・23日(日) 「男女平等センターまつり」が開催されます

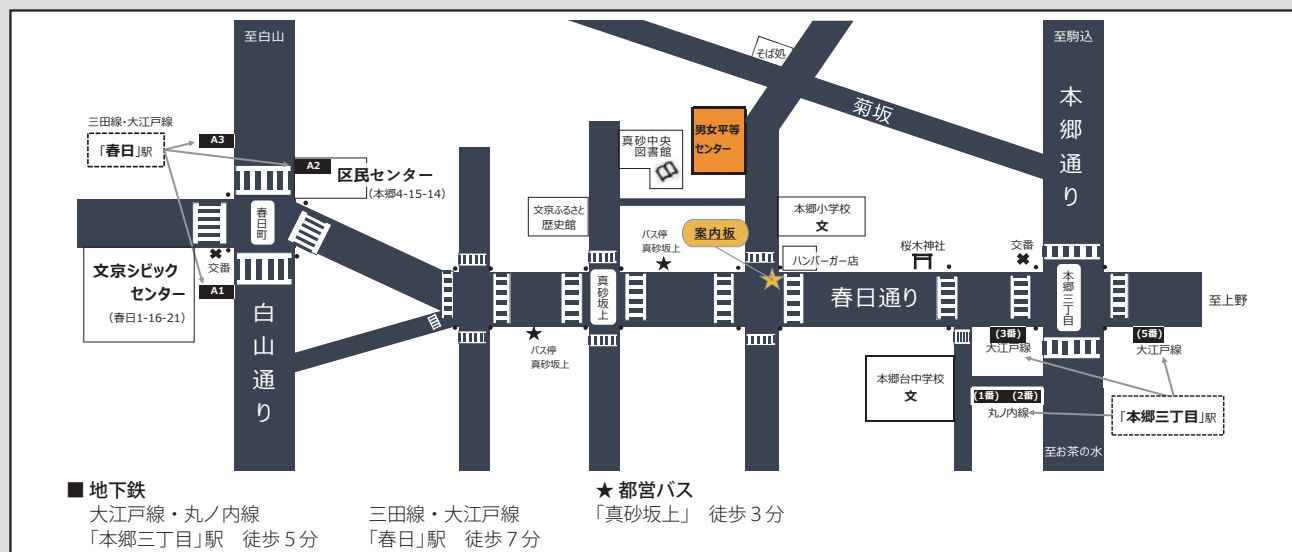
22日(土)にはウクライナを舞台にした1970年代の名作映画「ひまわり」を上映します。
この映画は、デジタルリマインダーという現代の技術で美しい映像に生まれ変わっています。



23日(日)は、現在87才、世界最高齢プログラマーとして世界的にも有名になられた若宮正子さんから、「人生ってすばらしい!」というご講演をいただきます。



※コロナの状況によって、人数を制限する場合がありますので予めご了承ください。



編集後記

戦後日本は貧しかった。その時代、日本中のほとんどの世帯が同じように貧しかった。バブル前、日本人の意識調査では、一億総中流であると発表され、内外から格差の小さい国、と指摘されていた。それまで日本には、日常に小さな不平不満があったとしても、がんばればどうにかなる、と、どこかにいつも「希望」があったように思う。けれど、今、ここまで開いた格差があぶりだしたのは、困窮へ追いやられた人たちの絶望だ。たとえ同じ状況であっても、希望が無いと思う人が増えれば、社会全体を包む気配が変わってしまう…。毎号表紙には多種多様の種から生き生きと命を輝かせる「葉」をモチーフにしていますが、明るい葉の裏にできる影の部分にもしっかり光をあてることで、少しでも希望が生まれることを強く願っています。

(大内)

2022年7月31日 発行 文京区女性団体連絡会会長 千代和子

編集担当 広報部 大内悦子・近麻希子・面来美保

〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号 Tel.03-3814-6159 Fax.03-5689-4534

文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理・運営しています。